

ながの環境パートナーシップ会議
平成22年度第2回 幹事会 会議記録

I 日 時 平成22年6月7日（月）18時から20時30分

II 場 所 会議室6（市役所第二庁舎4階）

III 出席幹事 6人

（弓場、金井、渡辺、中村、安藤、水野）

IV 欠席幹事 1人

（高木）

V 会議内容

1 幹事の事務分掌について

弓場代表幹事が幹事会の議事を進行することになった。

2 新規プロジェクトについて

（1）本日の提案内容と現在までの経過について

5月26日に審査保留になった「ウェザーステーションプロジェクト」について、あらためて「環境総合センター」設置チームとの関連と保留になるまでの経過について事務局から説明。

（2）提案者から内容説明

提案者から内容について説明を受けた。あわせて、「環境総合センター」設置チームの田中リーダーからウェザーステーションの設置・運営についてチームとしてどのように考えているか説明を受けた。

（3）審査方法説明

事務局より、審査基準・方法の説明

（4）審査

（5）審査結果報告

6名の幹事により審査。60点満点中50点の得点があったため、採択となった。

3 長野市食育推進審議会委員の推薦について

ながの環境パートナーシップ会議の代表として、安藤幹事（生ごみの削減・再利用システム構築プロジェクト）を推薦することに決定した。

4 入会申込書の承認について

渡辺氏、水上氏、堀内氏3名の入会が承認された。

5 イベントへの参加について

信州環境フェア、ふれあいまつりについて、ながの環境パートナーシップ会議の広報や会員獲得の機会と位置づけ、両方参加することになった。後日、各プロジェクトチームリーダーに伝え、参加希望者を募る。当日の参加方法については、次回の幹事会で検討する。（P会議のチラシ作成も検討する）

6 その他

- ・ 今まで、幹事会の前には正副幹事会を開催していたが、今後はメール等で事前打合せをすることになった。
- ・ 次回の幹事会で小山監事から排出権取引についてのワークショップ開催の提案がある予定。

VI 今後の日程等

◎幹事会

- (1) 日時・場所：7月2日（金）18:00～ 会議室10（市役所第二庁舎6階）
- (2) 内容：プロジェクトチームの活動状況報告、採択されたプロジェクトの予算配分について、信州環境フェア・ふれあいまつりの参加について、排出権ワークショップについてほか。

VII お知らせ

6月20日、「環境総合センター」設置チームによる環境学習会を生涯学習センター（トイゴウエスト4階）で開催します。午前9時30分～12時

VII 主な意見・質疑等

1 新規プロジェクトについて

事務局より、いままでの経過を説明した。

《提案者からの説明》

学校現場では、気象観測についてはあまり学習する機会がない。あっても温度計の使い方を学ぶくらいで、悪くすると教科書の中だけ終わってしまう。温度を測るという体験学習を通じて子どもたちに、自分たちを取り巻いている温度というものに関心を持ってもらい、環境に関心を持ってもらいたいという思いから始まった。グローブプログラムは5.6年前位にこのプロジェクトのメンバーと講師の資格を取りにいて、すぐにでも始めたいと考えていた。でも、諸事情からそのときは立ち上げられなかった。そこからずっと、出来る方法を模索していた。私はこどもエコクラブのサポーターを8年位しているが、子どもたちが世界とつながる重要性は感じていて今まで様々な国際会議にクラブの子どもたちをつれていったりした。そういう場に出ることによって子どもたちの視点が変わるし、普段の活動も幅が出てきたように思う。長野市中の子どもたちに同じ体験をしてほしい、その入り口としてこのグローブをやりたい。

ウエザーステーションを設置する場所が生涯学習センターでなければならない理由は、子どもたちを取り巻く状況が危ない状況になってきているので、親と一緒にきてくれればベストだが、子どもたちだけで電車で来れ、必ず人がいて、目があるということ。ここでとるデータがかなり偏ったデータであることは十分承知しているが、後町小学校にも働きかけている。もし、後町小学校でステーションが設置できれば、逆に比較対象としてヒートアイランドと長野市の通常の地面の温度がとれれば、対照的な数値が取れるのはよろしいのではないかと思う。グローブに参加させていただいて、子どもたちと活動させていただきたい。

《「環境総合センター」設置チーム田中リーダーから》

私どものチームでは、おとし位からトイゴにウエザーステーションを設置したいと動いてきた。実は、このステーションの話は草間さんからもともと話があったもので、そこからチームの活動として折衝したりしてきた。22年1月にはセンターでやろうということを確認したが、今回幸いにも新規プロジェクトを募集する話ができたので、ウエザーステーションの設置について強い思いをもっている方にやっていただいたほうがいいだろう、ということになった。私たちがやるといっていたときも、運営主体・管理主体がどこになるのかというのでつまづいていた。新規プロジェクトでやってもらったほうがベストだと思う。私たちは環境総合センター設置チームだが、こういう新しいプロジェクトが立ち上がっていくのも、長野市にとっていいことなのではと思う。

《質疑》

学校には昔から百葉箱があったと思うが、今はないのか

⇒あるにはあるが、理科の授業で使うだけなので、やっても1回だけ。教科書でこういうものだと学ぶだけというのも多い。自分のこどもたちも教科書だけで温度計は使っていない。

⇒なんでそういう学習しかできないのか。学校に設備があるなら、使わない手はないのに。

- 学校で出来ていないのに、われわれでそれをやるというのはどうか。学校版のチームではなにか関わりがあるのか。違うのか。
- ⇒学校版と連携していただければ。こういうチームが学校にきて支援してくれるのはありがたい。
- ・費用は33万円となっているが、これはいっぺんにつけなければならないのか。
- ⇒屋上に子どもたちをあげるのは危ない。さらに、屋上でとったデータをそのまま3階におろすのは無理。データを無線でもんぜんぷら座にとばして、それをまた生涯学習センターの3階に飛ばすのですが、メンバーで実験をして、飛ぶことは確認した。無線装置にどうしてもお金がかかってしまう。子どもたちが毎日くるのは不可能なので、1週間データを貯めておけるものとしてこの機械になった。
- ・子どもたちはデータを見るだけなのか。
- ⇒子どもたちにはやはり温度をはかることを体験してもらいたい。生涯学習センター3階のベランダに植栽のスペースがあるが、その西側に百葉箱を設置し、温度計をいれて子どもたちにはかかってもらうようにする。グローブの事務局には最高最低の温度が必要なので、屋上のデータを送る。パソコンで送信。
- ⇒子どもたちは実際どんな活動をするのか
- ⇒データをみることと、百葉箱の温度計をはかる。
- ⇒百葉箱の設置場所は気象庁できめられている場所とは違うか。
- ⇒違う。確実にその場所でやろうとすると、随分はなれてしまう。ただ、子どもたちは長野市がそんなに暑いんだということを実感してないと思うので、感じてもらうのにはいいとおもう。そのデータをアメリカに送ることで、他の地域のデータを見ることも出来る。今はクローズされているが、データを送ることで他の地域のデータが見れて、世界とのつながりを感じることが出来る。留学率も下がっていると聞くので、グローバルな目を持って欲しい。
- ⇒データの比較は、同じ位置にある、というわけではない？
- ⇒国によって状況が違うので、GPSで確認しないと分からない。
- ・設備の管理はどこがやるのか
- ⇒プロジェクトチームが管理する。持続的に。
- ・維持管理費は毎年かかるものか
- ⇒屋上機器の電池交換が必要。これはこどもでなく、チームで行う。データを送るときのパソコンの電気代はかかる。
- ・かかわる子どもたちはこどもエコクラブのメンバーを中心にするということか。
- ⇒6月にセンター設置チームと一緒に学習会を開いてここに参加した子どもたち、小中学校に配っている「えこねくしょん」でもお知らせしているので全部エコクラブの子どもたちではないと思うが、この学習会で簡易の百葉箱を作るという体験をしてもらい、それを子どもたちに持って帰ってもらう。温度を測ることを継続的にやってもらって、3ヵ月後くらいにまたそのデータを持ってきてもらって、考察し、温暖化などについての講義をうけてもらい、その後グローブへの参加を促していこうと考えている。
- ・お金がかからないことであれば良いが、予算がない中で他のチームへの影響も少なからずあると思うがどうか。
- ⇒以前は100万円以上かかったものだが、随分詰めてきた。しっかり活動していただければ、他のプロジェクトでいままで使ってきたお金を考えると、大変申し訳ないが、使わせていただきたい。
- ・メンテナンス費用・維持費についてももう一度確認したい。
- ⇒維持費は故障しなければ、電池代とデータ送信するときの電気代だけ。電気代はデータ送信は生涯学習センターのパソコンで行うので、気にしなくて大丈夫。機器をセットするとき、安全性を考えてワイヤーなどもしっかりしたものを考えているので、これだけの金額になっている。
- ⇒何年か前には150万円位とっていたが、今回は品質は大丈夫なのか。
- 前はフルセットでいろいろなデータをしっかりとれるものだった。でも、今回のも十分データをとることが出来るので大丈夫。

- ・チームで観測して子どもたちが送ったデータは、チームの持つデータとして考察されるのか。
- ⇒そのとおり。そこで関わった子どもたちが環境こどもサミットなどに参加してくれれば。
- ・グローブでの活動をしてもっと密接に関わっていく、プログラムをさらに発展させていく、そういう教育も含まれるのか。
- ⇒そのとおり。20日の学習会で地球温暖化を勉強してもらい、継続して温度を計ることが大事なんだということ認識してもらい、グローブを導入していきたい。
- ・子どもたちの関わり方について、設置したあと、子どもたちはどのような形でかかわっていくのか。
- ⇒20日に参加してくれた子どもたちが全員関わってくれればいいが、とりあえず核になる子供たちはいるので、その子たちを中心に継続して活動する。20日に作った簡易百葉箱と生涯学習センターでのデータを比較することもできればと考えている。そこから、こどもたちにいろいろな学習会に参加してもらい、知識の幅を広げられれば。
- ・新規プロジェクトの予算はあまりないので、とりあえずこれだけあれば始められるというはあるか。
- ⇒最悪、百葉箱を削っていただければ。子どもたちには簡易百葉箱で測れるようになってるので。本当はトイゴ広場で間伐材を使ってみんなで作れたらいいと思っていた。そして、トイゴ広場の木に百葉箱を取り付けて、通る人たちにも分かるようにできたらいいと考えていたが、プロジェクトが軌道に乗ってからと思い、計上させてもらった。柱だけは用意してある。
- ・こどもエコクラブは何人位いるのか。
- ⇒年度で更新するので、再登録になっているクラブもあるが、21年度は1,000人以上活動していた。現在300人位。学校のクラス単位で登録しているクラブや家族で登録しているクラブもある。(平成22年6月10日現在は40クラブ705名)
- ・こどもたちの参加について、20日の学習会はどこまでお知らせしてるのか、今の時点ではどのくらい応募がきているのか、やってみないとどのくらいくるのか分からないのか、心配だが。目標として何人くらいという考えはあるのか。あと、グローブプログラムへの参加は具体的にいつごろというはあるのか。来年とか、今年の秋とか。
- ⇒屋上の機器が設置できれば。プログラムに参加するのに必要なのが、こどもたちとグローブティーチャーと観測機器を設置する場所。こどもたちはやりたい、と思って準備している子達がいるので、その子たちを核に、機器さえ設置できればすぐにでも始められる。登録だけはしておいて、実験期間を設けて行いたい。エコクラブの子どもたちには、実験期間でのデータの吸い上げや事務局に送ることも体験してもらい、その後一般の子どもたちにも9月以降から参加してもらおうと考えている。30人くらいの子どもたちに参加してもらいたいと考えている。
- ⇒20日の学習会の応募状況は、今は2クラブ8名の参加が決定している。これからエコクラブあてにお知らせを出す。小・中学校で配布している「えこねくしょん」には(予定)でお知らせしている。
- ・グローブティーチャーは小・中学校の先生がなっているのか。教員の方だと、担当が替わると活動があまりされなくなることもあるかもしれない。
- ⇒グローブティーチャーは、もともと教員のための資格だが、エコクラブの参加もみとめられている。今回関わるグローブティーチャーは現役の教員ではない。なので、異動で人がいなくなって活動が出来なくなることはないと思う。
- ・市民会館がヨールカ堂のほうに移る。するとそこに人が集まってくる。子どもたちが集まりやすい場所でもあり、あそこにも機器をおけるかも、と思う。後町小学校が閉校した跡も敷地の有効利用として置けるのではないかと思う。やるからには、有効に活用する方法を考えていただきたい。
- ⇒できれば、後町小の跡にもおきたいし、長野市内でたくさんの場所に置きたいと考えている。トイゴは学習コーナーの活性化を図りたいから当面はそこに設置することを考えた。
- ・機器は簡単に移動できるものか。

⇒移動は可能。いろいろな箇所でデータがとれば、ヒートアイランドがよく分かる。子どもたちにいろいろな場所を夏休みに温度を測ってもらえば、比較ができる。

・子どもたちの学習会の際の保険についてはどうなっているのか。

⇒20日の交流会はセンター設置チーム主催の学習会なので、センター設置チームで保険をかける。そのほかの活動は、参加する人が自主的に保険に入っていた。

2 長野市食育推進審議会委員の推薦について

・再任でもかまわないのか。

⇒かまわない。保健所健康課に確認した。

・パートナーシップ会議として、というところを話したい。食育という話だと、保育園や幼稚園など、女性の視点、若いお母さんとか現場の意見が大事だと考える。パートナーシップ会議として出たときに、どのようなかわりができるのか。パートナーシップ会議で一番近いのは生ごみの削減プロジェクトだがパートナーシップ会議の代表としてどのような役割があるのか。

・それでは、パートナーシップ会議として、委員を推薦することはよろしいか。

⇒全員承認

・誰を推薦するか。安藤さんは今まで委員になっていただいていたし、保健所からも安藤さんに是非という話がある。他のどなたかでもいいという人がいればこの場で出していただいて、検討したいが。

⇒パートナーシップとして、ということであればその立場を踏まえて意見を言える方になるか。会員であればだれでもいいのか。

⇒それはもちろん、代表として意見を述べている。

⇒パートナーシップとして意見がまとまっているわけではないので、パートナーシップ会議に出ている人が参加してもらえばありがたいことではないか。

⇒推薦するときには、ながの環境パートナーシップ会議の会員として推薦するので、その立場で行っていただくようになる。

⇒自分は廃棄物の審議会で2期務めている。出来るだけ多くの人に市政に参画して欲しいという思いはある。そして、パートナーシップ会議から女性の視点で参画できないか。

⇒いままでの委員の6割以上は女性。男性は少ない。

⇒審議会委員をお願いする立場からは、何のための審議会か、それに一番合った人というのが本来はよいと思う。お願いしても、何も意見を言わないで帰られたり、1回も出席しない人もいる。出来るだけ出席していただいて、ご意見をいただける方をお願いしたい。代表としてしっかりお話しするというのであれば、事前に幹事会で話す内容について諮らなければならないのかもしれないし、審議会に出たあとの報告はどうするかといえば、現実的には難しい。市からみればパートナーシップ会議の代表として来ているという目でみている。

⇒広報で報告は無かったか。

⇒広報ではないが、市のホームページで会議録が見られる。

3 イベントの参加について

・以前は、パートナーシップ会議全体として参加していた。2.3年前からチームとして参加するようになった。

・出られるチームだけ参加して一日交替で出たこともあった。

・出られるチームだけでいいのか、パートナーシップ全体として出ることなのか、議論が必要ではないか。どのようなスタンスで参加するのか。

⇒実行委員会を作ってやるしかないか。

⇒昨年信州環境フェアに出たときは、ながの環境パートナーシップ会議というのはあまり表に出ていないように感じた。もっとアピールしてもいい。

⇒看板はだしたと思うが。

⇒会員も獲得したい。

- ⇒私たちはこういう団体で、こういうことを目指していて、チームとしてはこういう活動をしている、ということをもっとアピールしてもいいのではないか。そこで、前から懸案だったパートナーシップ会議としてのチラシ(リーフレット)を作成したらどうか。
- ⇒8月までだと時間もないが。
- ⇒出来る範囲でやりましょう。
- ⇒この間、パートナーシップのジャンパーを作った。それも使える。(時期的に暑いが)
- ⇒とりあえず、簡単なもので作ってそこに入会申込書をつければ。
- ⇒前に事務局で作ったのをたたき台にして、幹事会で検討すれば。あとプロジェクトチームの紹介もあわせて。一行くらいの説明文つけて。
- ⇒信州環境フェアについては、最初に2コマ申し込んでおいて、あとでチームに参加を募るということも出来る。
- ⇒では、用意するものとして、チラシはたたき台を次回の幹事会で検討して、看板とプロジェクトチームの紹介はどうするか。
- ⇒のぼり旗はあるが、看板はない。チームの紹介の仕方は全体で簡単に紹介して細かいところは希望したチームだけでよいか。
- ⇒そのあたりはもっと検討が必要。ブースの使い方はもっと考えなければいけない。
- ⇒生ごみチームでも参加を予定している。企画について考える。
- ⇒組織が変わって、会員も随分少なくなった。会の活性化、会員獲得のために何かしなければいけないと思う。
- ⇒信州環境フェアも会員獲得の重要なイベントとして位置づける。
- ⇒ふれあいまつりはどうするか。
- ⇒何年か前まで事務局で出ていた。しかし、会員の獲得にはいたらなかった。体験や物をあげるとかしなければ。環境に関心の無い人にお知らせするには、どこかで接点をもたないと。
- ⇒これも会員獲得のために積極的に参加するということでもいいか。申し込みは6月だが、開催は10月なので企画をねる時間はある。